

## 5 質問紙調査の結果の概要及び考察

### (1) 小学校第5学年

#### ア 勉強について

(単位：%)

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	分からない
普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい。	平成20年度	50.7	34.4	9.1	3.1	2.7
	平成23年度	56.4	31.7	7.2	2.8	1.9
	平成26年度	51.1	38.3	6.4	1.4	2.8
国語の勉強が好きだ。	平成20年度	25.4	34.6	22.3	14.9	2.9
	平成23年度	27.0	35.8	22.1	12.5	2.6
	平成26年度	24.8	39.8	23.1	10.4	1.8
国語の勉強は大切だ。	平成20年度	60.4	28.0	6.2	3.6	1.8
	平成23年度	61.7	27.0	6.4	3.1	1.8
	平成26年度	67.7	23.6	5.0	2.4	1.3
社会の勉強が好きだ。	平成20年度	30.4	33.4	21.2	12.5	2.4
	平成23年度	31.1	33.8	20.9	12.1	2.0
	平成26年度	34.9	35.2	19.1	9.1	1.6
社会の勉強は大切だ。	平成20年度	59.6	28.2	6.7	3.6	1.9
	平成23年度	62.4	26.1	6.4	3.3	1.8
	平成26年度	68.9	22.2	5.5	2.3	1.0
算数の勉強が好きだ。	平成20年度	47.1	27.1	14.2	9.7	1.9
	平成23年度	44.1	27.8	15.2	10.9	2.0
	平成26年度	46.0	30.1	14.2	8.3	1.5
算数の勉強は大切だ。	平成20年度	66.7	23.6	5.1	3.1	1.5
	平成23年度	70.4	20.7	4.6	2.9	1.4
	平成26年度	73.5	19.4	4.1	1.9	1.1
理科の勉強が好きだ。	平成20年度	51.0	30.3	11.5	5.7	1.5
	平成23年度	59.4	26.5	9.0	4.0	1.1
	平成26年度	69.1	22.7	5.5	2.2	0.6
理科の勉強は大切だ。	平成20年度	51.6	31.5	10.0	4.6	2.4
	平成23年度	59.6	27.9	7.7	3.1	1.7
	平成26年度	65.9	25.1	5.5	2.2	1.3

#### ①概況

- 普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したいと考えている児童は約9割おり、この傾向は、平成23年度の調査（以下、「前回調査」という）とほぼ同様である。
- 勉強が好きだと考えている児童の割合は、理科が約9割で最も高く、次いで算数が約8割となっている。また、前回調査と比べて、すべての教科で、この割合が増えている。
- 勉強が大切だと考えている児童は、どの教科も9割を超えている。また、前回調査と比べて、すべての教科で、この割合が増えている。

## ②課題

- 「普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」の項目において、約1割の児童が消極的な回答をしている。
- 「勉強が好きだ」の項目については、理科を除くと、それぞれの教科について、消極的な回答が2～3割ある。

## ③今後の対応等

- 授業の導入段階で、児童の興味関心を基に学習課題を設定したり、解決の見通しをもたせたりするなど、児童の学習意欲を喚起する。
- 主体的に学習に取り組むことのよさを教え、望ましい姿勢を褒めるようにする。
- 児童が主体的に活動する時間を確保する。

## イ 授業について

(単位：%)

		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半分ずつある	分からないことが多い	ほとんど分からない
国語の授業がどの程度分かりますか。	平成20年度	24.3	47.3	23.6	3.9	0.9
	平成23年度	23.9	48.0	23.7	3.5	0.9
	平成26年度	29.1	49.7	17.0	3.3	0.9
社会の授業がどの程度分かりますか。	平成20年度	25.7	43.5	23.1	6.4	1.3
	平成23年度	24.9	43.7	24.1	6.2	1.2
	平成26年度	33.6	42.8	17.6	4.8	1.1
算数の授業がどの程度分かりますか。	平成20年度	41.6	34.7	16.9	5.6	1.2
	平成23年度	38.4	35.7	19.0	5.6	1.3
	平成26年度	43.3	36.1	14.6	4.6	1.3
理科の授業がどの程度分かりますか。	平成20年度	37.6	40.8	17.1	3.6	0.9
	平成23年度	42.6	39.8	14.3	2.7	0.5
	平成26年度	54.6	34.5	8.7	1.8	0.5

## ①概況

- 授業が分かるという回答している割合は、理科が約9割で最も高く、算数、国語、社会が約8割となっている。
- すべての教科において、授業が分かるという回答している割合は、前回調査を大きく上回っている。

## ②課題

- 国語や社会、算数では、授業が分からない（分からないことが半分あると回答している分も含む）と回答している児童の割合が約2割となっている。

### ③今後の対応等

- 児童の実態に応じて、教材等の工夫をする。
- ティーム・ティーチングや個別指導、補充学習等を必要に応じて取り入れる。
- 児童の実態に応じて、放課後の時間等を利用して、補充的な指導を行う。

□授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。(複数回答) (単位：%)

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねに行く	友人にたずねる	家族にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
平成20年度	22.3	16.4	52.8	54.1	4.0	34.9	13.0
平成23年度	21.3	16.1	53.4	55.8	4.3	37.9	13.2
平成26年度	22.6	13.9	53.6	53.7	4.2	38.9	10.7

### ①概況

- 授業の中で分からないことがあった場合、家族や友人にたずねると回答した児童の割合はそれぞれ5割を超えている。
- 前回調査と比較すると、「そのままにしておく」児童の割合は減少している。

### ②課題

- 分からないところを教師にたずねる割合は、約1～2割と少ない。
- 分からないところをそのままにしておくと回答した児童が約1割いる。

### ③今後の対応等

- 教師が自ら一人一人の児童とふれ合う機会を作り、よさを認めたり、悩み事を聞いたりすることを通して、児童と信頼関係を築き、何でも相談できるようにしておく。
- 分からないことを児童が自ら調べてみることも大切なことなので、このことについても指導する。

### ウ 授業中の指導について

(単位：%)

		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。	平成26年度	44.6	38.7	14.1	2.7
授業では学級の中で、互いの考えを話し合う活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	39.9	42.4	14.9	2.8
授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。	平成26年度	53.6	32.1	11.4	2.9
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	41.2	37.6	16.6	4.6

(上記項目は、今年度新たに設定した。)

①概況

- 授業中に、児童が自らの考えを发表或し、互いに話し合ったりする機会が設定されていると回答した児童は8割を超えている。
- 授業の目標(めあて・ねらい)の提示が行われていると回答した児童が、8割を大きく超えている。

②課題

- 授業の終わりに学習内容を振り返っていると受け止めている児童は、8割を下回っている。

③今後の対応等

- 授業の中で、児童自身が考えたり、発表したりする活動を行うことは、思考力・判断力・表現力の育成に極めて重要であることから、引き続き、取り入れるようにする。
- 授業の終わりには、学習内容の定着にとって不可欠なことから、板書やプリントを用いたり、発表させたりするなどして振り返り活動を行うようにする。
- グループ学習やペア学習を取り入れ、一人一人の児童が考えたり、話したりする場を設定する。

エ 家庭学習について

□普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか。（単位：％）

	3時間以上	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	30分以上、 1時間より 少ない	30分より 少ない	全くしない
平成20年度	2.7	8.5	30.6	36.6	14.9	6.7
平成23年度	5.9	16.4	41.4	26.0	7.2	3.1
平成26年度	6.0	16.2	44.6	25.8	5.8	1.6

□土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

（単位：％）

	4時間以上	3時間以上、 4時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全くしない
平成26年度	2.6	8.4	19.4	39.8	25.8	4.0

（上記項目は、今年度新たに設定した。）

□普段（月曜日から金曜日）、家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。（複数回答）

（単位：％）

	ほとんど 勉強しない	宿題が出れば、 宿題をする	試験があれば、 それにそなえて 勉強する	予習や復習を する	興味があることにつ いて自分で調べたり、 確かめたりする
平成20年度	5.6	73.7	33.5	36.0	24.8

平成23年度	4.8	76.1	35.2	42.3	27.8
平成26年度	3.2	75.4	31.7	42.9	24.8

### ①概況

- 平日、学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上（「1時間以上」には、「2時間以上」、「3時間以上」を含む）勉強している児童は6割を超え、前回までの調査よりも増えている。
- 平日、予習や復習をしている児童は約4割いる。
- 休日に、1日当たり2時間以上（「2時間以上」には、「3時間以上」、「4時間以上」を含む）勉強している児童は約3割おり、平日よりも約1割多い。

### ②課題

- 平日あるいは休日に、1時間以上家庭学習をしている児童がまだまだ少ない。
- 休日に家庭学習を「全くしない」児童が約4%いる。

### ③今後の対応等

- 家庭学習のし方について、学校や児童の実態を考慮し、教職員間で共通理解をして指導する。
- 児童が自主的に家庭学習に取り組めるように、学習方法を具体的に指導する。
- 家庭学習の習慣化を図るために、学校側から保護者に対して家庭学習に対する考え方やし方を示し、協力を求めるようにする。

## オ 生活について

□ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、睡眠をとりますか。（単位：％）

	10時間以上	9時間以上、 10時間より 少ない	8時間以上、 9時間より 少ない	7時間以上、 8時間より 少ない	6時間以上、 7時間より 少ない	6時間より 少ない
平成20年度	9.0	28.6	37.2	15.7	6.9	2.6
平成23年度	9.0	27.9	37.8	15.8	6.9	2.4
平成26年度	8.6	27.9	36.5	17.1	7.2	2.6

□ 学校に行く前に朝食をとりますか。（単位：％）

	必ずとる	たいていとる	とらないことが 多い	全く、または、 ほとんどとらない
平成20年度	83.8	11.5	3.4	1.3
平成23年度	85.1	10.5	3.3	1.1
平成26年度	86.0	10.3	2.7	1.0

### ①概況

- 平日の睡眠時間については、7割以上の児童が8時間以上とっている。また、この傾向はこ

の6年間ほとんど変わっていない。

- 朝食については、ほぼすべての児童がとっている。また、この傾向はこの6年間ほとんど変わっていない。

## ②課題

- 睡眠時間が7時間を下回っている児童が約1割いる。
- 朝食をとらない児童が約4%いる。

## ③今後の対応等

- 家庭での生活・学習習慣と学力との間には相関関係がある。児童の家庭環境を理解した上で、基本的な生活習慣の確立のため、家庭の理解と協力を求めるようにする。
- 基本的な生活習慣を確立した上で、それを学習習慣に結び付けていくといった適切な指導を行うようにする。また、家庭や地域社会と連携を図りながら、家庭における児童の望ましい生活習慣の形成を支援していく取組を引き続き行うようにする。

□普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、テレビやビデオ・DVD等を見ていますか。（テレビゲーム、コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含みます。）（単位：％）

	4時間以上	3時間以上、 4時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全く、または、 ほとんど見て いない
平成26年度	14.8	14.9	22.0	24.6	17.4	6.2

（上記項目は、前回調査の質問内容を一部変更して実施した。）

□普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。）（単位：％）

	4時間 以上	3時間以上、 4時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	30分以上、 1時間より 少ない	30分より 少ない	携帯電話やス マートフォンは 持っていない
平成23年度							76.9
平成26年度	2.1	2.4	3.7	5.9	7.6	20.6	57.8

（上記携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの使用時間に係る項目は、今年度新たに設定した。前回調査では、利用内容が「通話やメール」、利用時間に関して「ほぼ毎日している」・「ときどきしている」・「全く、または、ほとんどしていない」・「携帯電話は持っていない」の4段階でアンケートを実施したため、「携帯電話やスマートフォンは持っていない」の項目のみ参考値として掲載した。）

## ①概況

- 平日、テレビ等の視聴やゲームに充てている時間は、1～2時間が全体の約4分の1で最も多く、次いで2～3時間となっている。

- 平日の携帯電話やスマートフォンによる通話やメール、インターネットの利用に1時間以上（「1時間以上」には、「2時間以上」、「3時間以上」、「4時間以上」を含む）充てている児童は、1割以上いる。
- 携帯電話やスマートフォンを持っている児童は約4割いる。

## ②課題

- 携帯電話やスマートフォンの所有率は、前回調査と比較すると、約2割増加している。

## ③今後の対応等

- テレビやゲーム、携帯電話等の視聴や利用時間やその方法について、児童の実態に応じて家庭できまり等を設けるようにする。
- 児童が有害な情報に接することのないようにするとともに、接した時の対処方法等について指導・啓発する。
- 情報モラル等について、参観日や地域懇談会、学級・学年通信等で、保護者に継続的に理解と協力を呼びかける。

## カ 読書について

□ 学校の授業以外に、1日にだいたいどのくらい読書をしますか。 (単位：%)

	1時間以上	30分以上、1時間より少ない	10分以上、30分より少ない	10分より少ない	全く、または、ほとんどしない
平成20年度	8.1	16.5	30.5	18.2	26.7
平成23年度	10.9	23.0	28.1	15.5	22.5
平成26年度	12.6	22.9	27.2	15.8	21.4

## ①概況

- 学校の授業以外での読書時間は、10～30分が約3割で最も多く、次いで30分～1時間が約2割となっている。また、この傾向は前回調査とあまり変わらない。
- 読書を「全く、または、ほとんどしない」児童は、6年間で減少しており、改善されている。

## ②課題

- 1時間以上読書する児童の割合は約1割にとどまっている。
- 「全く、または、ほとんどしない」と回答した児童が約2割いる。

## ③今後の対応等

- 読み聞かせや国語の学習に図書紹介などの活動を取り入れるなど、読書することの楽しさや大切さを実感できる指導をする。
- 読書の時間を確保するよう、保護者にも協力を求める。

## キ 進学や将来等について

□将来どの学校まで進みたいですか。

(単位：%)

	中学校まで	高校まで	短大まで	大学まで	その他の学校まで	分からない
平成20年度	2.1	31.9	7.1	34.0	10.2	14.8
平成23年度	1.6	29.0	6.7	39.6	8.8	14.3
平成26年度	1.3	26.7	5.5	46.1	7.5	12.8

### ①概況

- 高校以上（「高校以上」には、「その他の学校」を含む）の学校まで進みたいと考えている児童は8割を超えており、前回調査を若干上回っている。
- 中学、高校、短大までの希望が前回よりも減少し、大学までの希望がやや増えている。

### ②課題

- 自分の進路について「分からない」と回答した児童が1割以上いる。

### ③今後の対応等

- 小・中学校9年間を見通したキャリア教育の計画を作り、継続的な指導を行うようにする。
- 県教育委員会が作成した『あおもりっ子キャリアノート』等を積極的に活用する。

## ク 自己肯定感や夢等について

(単位：%)

		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
自分には、よいところがあると思う。	平成26年度	28.7	46.3	17.9	7.1
将来の夢や目標を持っている。	平成26年度	72.2	17.0	6.6	4.2

(上記項目は、今年度新たに設定した。)

### ①概況

- 「自分には、よいところがある」と思っていない児童は7割を超えている。
- 夢や目標を持っている児童は約9割いる。

### ②課題

- 「自分には、よいところがある」と思っていない児童が、4人に1人いる。
- 将来の夢や目標を持っていない児童が約1割いる。

### ③今後の対応等

- 授業やその他の教育活動の中で児童一人一人に役割を与え、活躍できる場を設定する等して、自己肯定感をもたせる指導を行う。
- 児童を褒めたり、認めたりすることで、自信をもたせる。
- 職場見学や先輩の体験談、働いている人の講演などを児童に聞かせる機会を設けるようにする。